

2020年02月19日

## 住友林業グループのサステナビリティレポート2019 第23回環境コミュニケーション大賞で「優良賞」受賞

住友林業株式会社(社長:市川 晃 本社:東京都千代田区)が発行する「住友林業グループサステナビリティレポート2019」などが、第23回環境コミュニケーション大賞の環境報告書部門で「優良賞」を受賞しました。

環境コミュニケーション大賞は環境省と一般財団法人 地球・人間環境フォーラムが主催し、優れた環境報告書や環境活動レポートなどを表彰する制度です。事業者の環境経営や環境コミュニケーションへの取り組みを促進し、環境情報開示の質向上を目指しています。

評価対象は「住友林業グループ サステナビリティレポート2019」(ウェブページ)のほか、環境コミュニケーションの入り口となる冊子「住友林業グループサステナビリティ活動ハイライト2019」と、投資家向けのツールである「統合報告書2019」です。



今回の受賞で主催者から「様々な対象向けに充実した報告書を発行しておりアカウンタビリティに努めている。事業活動の様々なステージにおける生物多様性に関する活動が開示されており、バリューチェーン全体を通じて生物多様性に真剣に取り組んでいることが理解できる。TCFDシナリオ分析やSBTの取組など企業の中でのトップランナーである。保証対象情報の対象項目が多い点や対象範囲が明確になっている」と評価されました。



2020年2月19日に行われた表彰式の様子

「住友林業グループ サステナビリティレポート2019」は「サステナビリティ経営」「ガバナンス」「社会性報告」「環境報告」に加え「サステナビリティ活動ハイライト」「事業を通じた貢献」のパートを設け、事業によるサステナビリティ活動を強く打ち出しているのが特徴です。

「サステナビリティ活動ハイライト」では、「安心・安全な住宅の提供」等2018年度の6つの具体的な取り組みを紹介。報告内容はISO26000(社会的責任に関する手引)※1やGRI Standards(2016)※2を参考に作成し、TCFD※3の提言に基づいた情報開示もしています。「統合報告書2019」では、当社の事業によるSDGsへの貢献と2019年に発表した「住友林業グループ中期経営計画2021」で策定した5つの「重要課題」などを株主・投資家ならびにステークホルダーの方々に分かりやすくまとめています。

今後も事業を通じて社会課題の解決に貢献し、持続可能な社会の実現と企業価値の向上を目指していきます。

※1 ISO26000(社会的責任に関する手引)…ISO(国際標準化機構)が2010年11月1日に発行した、組織の社会的責任に関する国際規格

※2 GRI Standards(2016)…UNEP(国連環境計画)の公認団体であるGRI(Global Reporting Initiative)が策定する企業・組織に対するサステナビリティレポートに関する国際基準

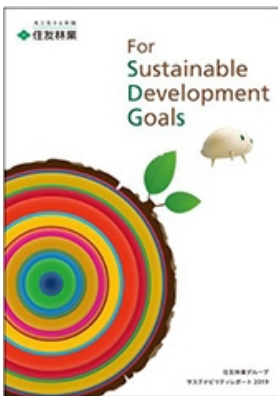
※3 気候関連財務情報開示タスクフォース

■ サステナビリティレポート: <https://sfc.jp/information/society/>

- サステナビリティレポート ダウンロードページ：<https://sfc.jp/information/society/pdf/>
- 統合報告書 ダウンロードページ：<https://sfc.jp/information/ir/library/annual/>



住友林業グループサステナビリティレポート2019(ウェブページ)



住友林業グループ  
サステナビリティ活動ハイライト2019



統合報告書2019

以上

《リリースに関するお問い合わせ》  
住友林業株式会社  
コーポレート・コミュニケーション部 平川  
TEL:03-3214-2270